天文学者の宗教観に関するアンケート調査結果報告

東京大学天文学教室有志

東京大学理学部天文学教室では，海野和三郎（現近畿大学）を中心に「天文学の宗教観の研究」を，財団法人庭野平和財団の昭和 60 年度研究活動助成金の補助をうけて行ないました．この研究のために，昨年5月前後に全国の日本天文学会の特別会員の皆様に宗教観に関するアンケート調査を依頼し，スタッフ，研究生，院生を含めての 198 の回答がありました．調査に心よく協力して下さり，回答を寄せられた方々に誌上をお借りしてお礼申し上げるとともに，ここにその結果を報告したいと思います．

1. 研究の目的

古来，天文学と宗教とは深くかかわってきました．たとえば，真言密教における“まんだら”は宇宙の表現であるといわれていますし，イスラム教における断食やキリスト教におけるイースターの日取りの決定は天文学が基礎になっています．とはいえ，中世の何人かの天文学者の受難にみられるように，とかく対立的なものとして捉えられがちなのも事実です．

そこで，天文学に従事する者が宗教をどのように把握しているのか，という素朴な疑問が浮かんできます．例えば宇宙飛行士が宇宙空間に出ることにより強烈な宗教的体験する（「宇宙からの帰還」立花隆著）ように，天文学者も専門的研究を通じて，何らかの宗教的概念を形成しているのではないでしょうか．この研究は，その実情を可能な限り明らかにすることを目的にはじめられたものです．

2. 研究の方法

アンケート調査を主な研究方法としましたが，調査項目については，一般の人との差異を調べるために昭和 59 年度庭野平和財団助成研究「わが国の青年における宗教観の研究」（東京都立大学教授・詫摩武俊）と全く同じ設問を盛り込みました．この研究の対象としている年齢が 20 歳前後なので，集計結果もスタッフと若手（院生・研究生など）に分けました．また，討論の必要性から天文天体物理若手夏の学校の「天文学の社会」分科会で中間報告の時間をいただいたほか，5名の方から論文を寄せていただきました．

3. アンケート調査結果

198 のアンケート（スタッフ 148，若手 50）の選択式設問に対する集計を表に掲げます．表3を除いて，すべて問いに対して肯定的に答えた者の比率を％で表わしています．表 7，表 8～表 12 には，一般大学生の比較資料のない設問です．

集計結果はいくつか興味深い特徴を示しています．

不安や心配の内容に関しては当然ながらスタッフと若手の間で大きな差がみられますが，若手と一般大学生とで全体的な傾向はほとんど同じです．宗教的感覚が一般に比べて低く，特に人生観のうえで心のよりどころが必要と思っている人が少ないのが目立ちます．また，表 6 では，死後の霊や UFO など自然科学的手法で存在が証明されていないものに対する否定的態度がはっきりとしています．

ところが，この考え方がそのまま宗教（あるいは信仰心）を否定することにはつながっていないようです．表 8 でもスタッフ，若手ともに一般大学生を上回る率で，信仰心を持つという回答結果にそれがあらわれています．ただし，その信仰心の性格は漠然としたものです．信仰心があっても，既成宗教に参加している人はスタッフで2割，若手で1割しかいません．

このような漠然とした信仰心がはたして天文学あるいは自然科学に従事する者の特異性であるかどうかはなんとも言えませんが，少なくとも既成宗教の世界観（宇宙観）を受けいれがたいものと考えていることは確かです．これは表 9 にもあらわれています．信仰心があって既成宗教に参加している者が1人しかいなかったため，項目 b は 0％ の回答になっていますが，スタッフをみると 70％ の人が既成宗教の宇宙観と天文学者としての宇宙観に差があると考えています．

この宇宙観の差についてどう思うか，という記述式の設問では，「差があってもかまわない」という意見と，「科学にあった宇宙観を導入すべきだ」という意見がありました．

注目すべきことは，表 12 でみられるように天文学が宗教へ影響を与えると考えている者が若手，スタッフともに3割以上いることです．天文学と宗教の関係に関する記述式設問でも，いろいろな回答がありました．両者は中世の時のように互いに干渉しあうものだ，とするものから，「互いに無関係で独立なもの」になったというものまでさまざまでしたが，新しい科学に基づいた新しい宗教の例として，静岡の某教団が天体観測を宗教儀式としてとりいれている，ということを知らせてくれた方

もおりました．全体的傾向としては，両者を「対立・敵対するもの」，「同一のもの」，「相補的なもの」と捉える3つの大きな考え方に類別できます．「敵対する」という考え方は文字通りで，無関係あるいは相矛盾する概念，もっと極端には天文学にとって宗教は有害だ，とする意見です．「同一のもの」というのは，同じ宇宙観を追求するものでありながら単にその手法がちがうために全く別の概念として現われている，というもので，割合に多かったものです．「相補的なもの」というのは，人間の尊厳を究める極致として一方に天文学があり，一方に宗教がある，あるいは自然現象の発生する経緯を解明しようとする（HOW）のが天文学で，その存在の意味を問う（WHY）が宗教である，という意見です．

いずれにせよ，この種の概念の捉え方は実に千差万別なようです．

表1 不安や心配の内容（%；以下表12まで同じ）

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 自分の健康	39.4	34.0	32.9
b. 成績・就職	0.6	68.0	83.9
c. 恋愛・結婚	2.0	34.0	53.2
d. 家庭内の人間関係	16.3	8.0	18.5
e. 友人・知人との人間関係	14.2	18.0	39.6
f. 政治	22.4	30.0	13.3
g. 経済	14.2	22.0	11.1
h. 国際関係	20.4	26.0	22.4
i. 現在の仕事	33.3	36.0	—

表2 人生観

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 自分を本当に理解してくれる人はいない	18.3	22.0	10.8
b. 人間は，本来他人に頼らず自分ひとりの力で生きて行くべきだ	38.7	24.0	23.3
c. 人間は重要な問題に直面した時何か心のよりどころが必要な弱い存在だ	44.2	42.0	78.7
d. 今の世の中は自分のことばかり考えて他人のことには無関心な人が多い	38.0	28.0	41.1

表3 生活習慣（「しない」者の比率）

	スタッフ	若手	一般大学生
a. お盆やお彼岸のお墓参り	29.9	46.0	22.2
b. お守りやおふだをもらう	58.5	60.0	29.1
c. おみくじをひく	60.5	58.0	26.9
d. 占いをしてもらう	85.7	92.0	66.8
e. 週刊誌などの占い記事を読む	67.3	64.0	19.3
f. 神棚を拝む	63.9	84.0	69.5
g. 仏壇を拝む	48.9	60.0	38.1

表 4 宗教的感覚

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 神や仏に願い事をすると何となく叶えてくれそうな気がする	8.1	14.0	47.7
b. 神でも仏でも心のよりどころになるものが欲しい	10.8	4.0	36.4
c. 人間には自分の力ではどうすることもできない運命というものがある	35.1	34.0	71.1
d. 人には知られなくても，悪い事をすればいつか必ず報いがある	31.2	20.0	65.8
e. 祖先の人たちとは深い心のつながりを感じる	14.2	6.0	16.2

表 5 幸福の条件

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 高い収入があること	7.4	10.0	13.4
b. 豊かな趣味があること	28.5	24.0	58.8
c. やりがいのある仕事	68.7	50.0	66.7
d. 信仰心	6.1	4.0	6.8
e. 家族と仲よく暮らすこと	70.0	64.0	85.7
f. いい友人	53.7	60.0	89.1

表 6 確かに存在すると思うもの

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 死後の霊魂	4.0	6.0	42.0
b. 神	5.4	10.0	27.1
c. 仏	3.4	6.0	17.6
d. 虫の知らせなど超自然的な能力	24.4	26.0	59.1
e. UFO	5.4	6.0	37.0

表 7 神や仏に祈った経験

	スタッフ	若手	一般大学生
非常に困った問題にぶつかり，神や仏に祈ったことがある	32.6	30.0	—

表 8-1 信仰心の有無

	スタッフ	若手	一般大学生
信仰心を持っている	29.2	18.0	15.9

表 8-2 既成宗教への参加（信仰心のある人）

	スタッフ	若手	一般大学生
a. 信仰心はあるが既成宗教でない	79.5	90.0	—
b. 既成宗教である	20.4	10.0	—

表 9 天文学と信仰心の結びつき

	スタッフ	若手
a. 信仰心と自分のやっている天文学の研究と関係がある	12.9	100
b. (既成宗教を信仰している場合) その宗教の宇宙観と天文学者としての宇宙観に差がある	72.0	0

表 10 宗教の必要度

	スタッフ	若手
a. ぜひ必要	6.8	4.0
b. 必要	21.0	12.0
c. どちらでもない	42.1	54.0
d. 必要ではない	12.9	12.0
e. ない方がよい	5.4	6.0

表 11 宗教の今後

	スタッフ	若手
a. 盛んになる	12.2	16.0
b. 今と同じ	59.1	54.0
c. 衰退する	18.3	14.0

表 12 天文学と宗教

	スタッフ	若手
a. これからも天文学の発展が宗教に影響を与える	38.0	36.0
b. 天文学は今後も宇宙観の形成に役立つ	90.4	86.0

4. おわりに

ここでは集計結果に対して必要最小限の解釈しか述べてありません．読者の皆さんそれぞれ独自に解釈して下さることを望みます．

この研究の内容は，寄稿された5篇の論文とともに最終報告書として現在印刷中ですが，もしご希望の方があれば，少々余分にありますのでご連絡下さい．

最後に，この研究を実施するにあたりご援助下さった庭野財団の方々，協力して下さった学会会員の皆様に誌上を借りてお礼申し上げます．（文責：渡部潤一）

連絡先 東京大学理学部天文学教室 森沢勝郎
文京区弥生 2-11-16
(03-812-2111，内 4267)